

床下や小屋裏は「住宅性能維持」を静かに左右する

床下は「構造を支える環境」

木造住宅において、床下は単なる空間ではありません。
土台・大引き・根太といった構造を支える木部が集まる場所です。
ここで起きているのは、

- 含水率の上昇
- 腐朽菌の活動
- シロアリの活性化

といった、静かな劣化です。



重要なのは、これらは一気に壊れるのではなく、
じわじわ進むこと。

だからこそ、対策も「じわじわ効かせる」必要があります。



含水率の上昇



腐朽菌の活動



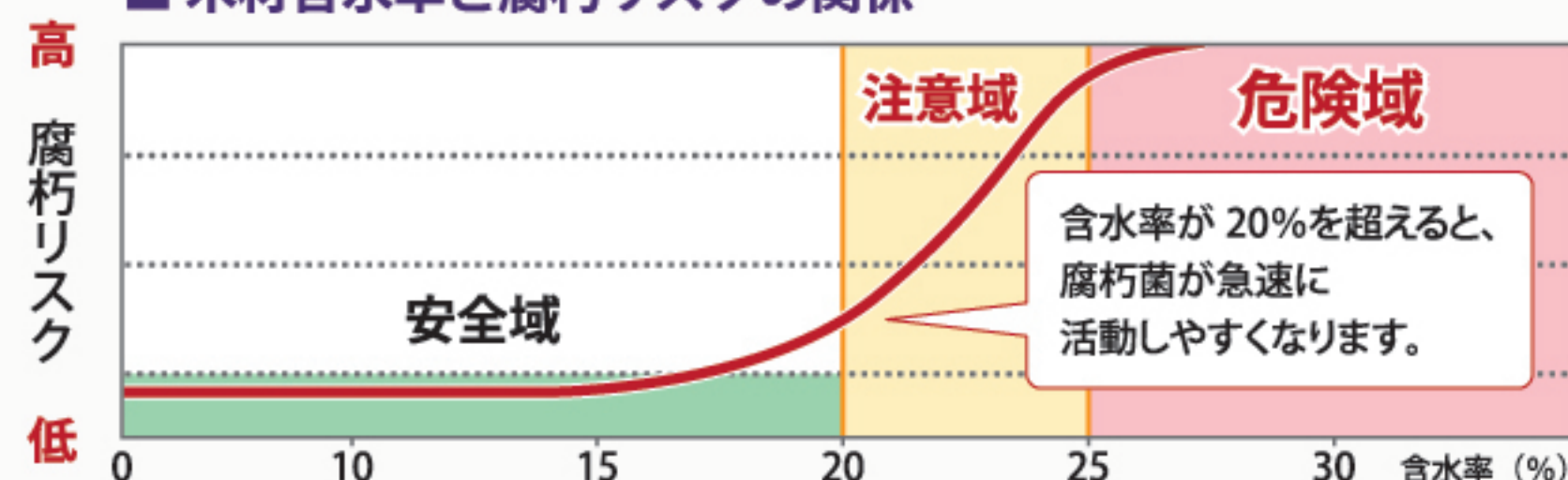
シロアリの痕跡



カビの発生

床下換気は、湿気を“取り除く”のではなく、
空気を動かし続けることで木材の状態を安定させるための仕組みです。
いわば、住まいにとっての体質改善です。

■ 木材含水率と腐朽リスクの関係



■ 床下換気の効果イメージ



湿気が停滞し、
木材の含水率が上昇



空気が流れ、
含水率が安定

床下換気のポイント

- ✓ 空気の出入口を確保する
- ✓ 床下全体で空気を動かす
- ✓ 継続的な換気がカギ

一度の換気で終わりではなく、
継続的に機能することが重要です。

一方で小屋裏は、
ここは、夏場には高温化し、
冬から春にかけては結露が
発生しやすい場所です。

特に最近では、

- 高断熱化
- 気密性の向上

によって、逃げ場のない空気が
滞留しやすい構造になっています。

結果として、

- 屋根裏のカビ
- 断熱材の性能低下
- 構造材の劣化

といった問題が、
「気づいたときには広がっている」
状態になります。

■ 小屋裏で起こる代表的な劣化



カビの発生

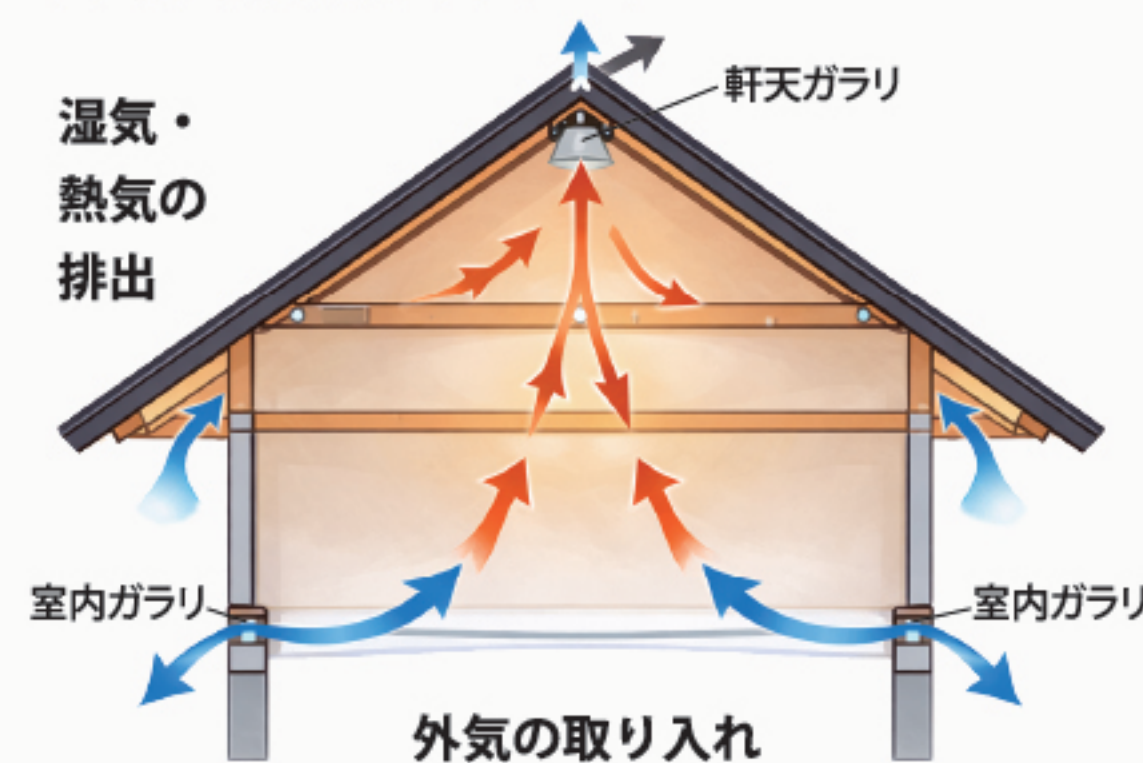


断熱材の劣化・湿潤



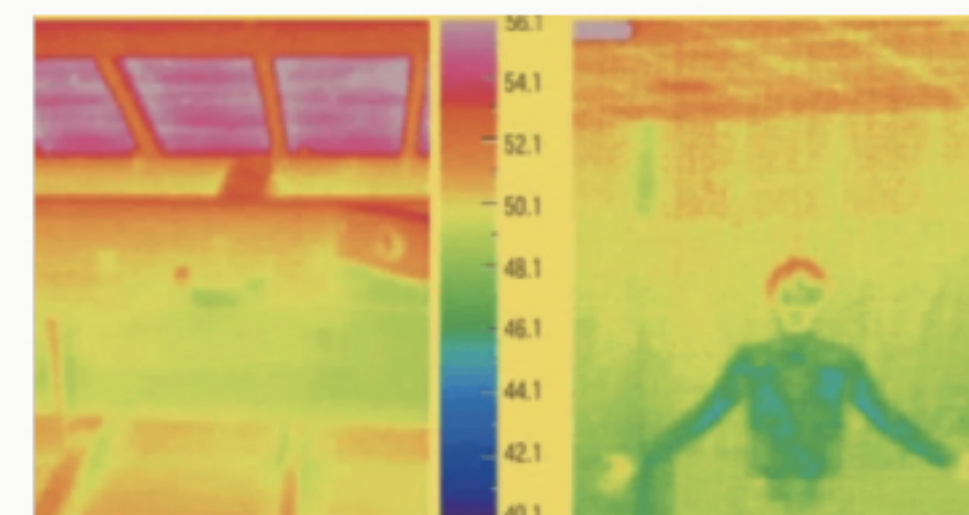
構造材の変色・腐朽

■ 小屋裏換気イメージ



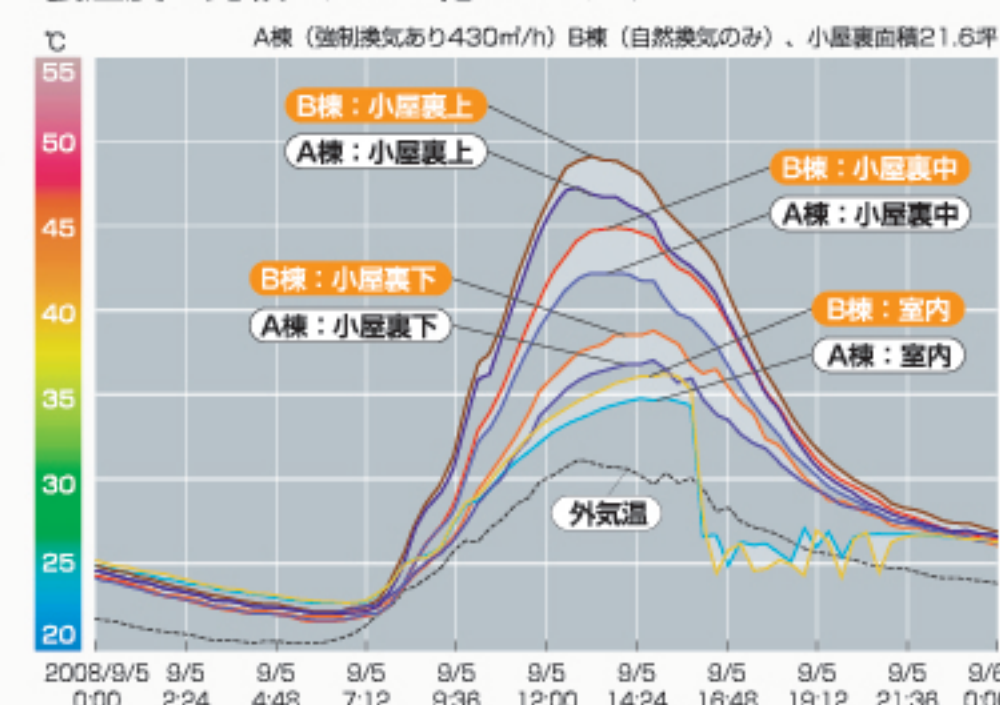
小屋裏換気の本質は、
“冷やすこと”ではなく、
空気の流れを
作ることにあります。

空気の対策が、
住まいを守ります。



室内エアコン電力量効果実験

当社テクニカルセンター、テストハウス A・Bでの小屋
裏温度を比較しグラフ化しました。



小屋裏を換気することにより、晴れた日のエアコン動作時の
電力量の低減率は約1.5%～2.3%※あり省エネ効果を確認
しました。

※状況やエアコンの能力・効率により異なります。
エアコン運転時間16:00～22:00までの6時間

小屋裏は「熱と湿気の滞留ポイント」